

## 「神意(カムイ)」 浅田

配役

九条礼神社神主	吉田	高田さん
九条礼神社氏子総代	國本	井口さん
笛一族の息子	伊吹康一	金子さん
康一の上司	山路部長(女性)	舟木さん

音楽が鳴っている(ジャニス・ジョップリンの「サマータイム」。途中で切れると同時に劇が始まる)

ここは、東京の丸の内にあるIKバイオセラピーホールディングスの応接室。応接室にいるのは、九条礼神社神主の吉田と氏子総代の國本。その日の朝に、JRで石川県を出発して昼過ぎに東京に到着し、ここへ訪ねてきた。

訪問の相手は、九条礼出身の伊吹康一。康一はこのIKバイオセラピーホールディングスの研究所に勤務。応接室のドアが開いて康一が登場。

康一 どうしたんです？吉田のおじさんに、國本のおじさん

國本 どうしたのもうしたもないやろ！

吉田 電話で話してもらちがあかんからこうして直接やってきたんや。

康一 いや、直接来ていただいても無理なものは無理ですよ

國本 昨日から携帯に何度も連絡したんやけど、

康一 すみません。プレゼンのためにデーターを整理していたので・・・

國本 分かった、分かった！まあ、本来なら康一君、君のおやじさんが来

るところやけど、交通事故で安静にしとらんといかんということ

吉田 代理としてわしらが来たんや。だから、これからの言葉は康一、お

前のおやじさんの言葉と申うて聞いてくれや。

康一 いや、誰が来ようとも・・・

國本 康一君、分かっておるやろ。明日の祭りの大切さは

康一 分かっていますよ。小さい頃から、爺ちゃんからも、おやじからも、

もう耳にタコが出来るくらいに聞かされていますから・・・

國本 じゃあ、もう一度タコ作ってもらいます！(大声で)明日は九条礼

祭文祭り！

康一 だから、電話でもお話ししましたように、明日は、うちの会社にと  
つて、最大級の重要なプレゼンがあり、その担当が僕なのです。

吉田 康一、お前のこの会社、社員は何人おる？

康一 えっ、社員ですか・・・僕はいつも研究所にいますので、詳しくは分か

りませんが、多分、このビルの中には百人くらいでしょうか・

吉田 だったら、他の人にそのプレゼンを任せればいいやろ

國本 それがホントのプレゼント・・なんてね

康一 確かに、社員はいますが、明日のプレゼンの担当は僕なんです。

吉田 そう。笛の担当もお前だけや。

國本 今朝、本家の忠則君から電話があつたんやけど、いまスイスに学会で来ているから、これから飛行機に乗って帰っても、着くのはギリギリ明日の朝。乗り換えもあるし、飛行機が少しでも遅れたら、昼前に在所に着くのは難しいって・

吉田 そうなると康一、笛方はお前しかおらん

康一 でも、プレゼンの担当も僕なんです。

國本 そうや！プレゼンを先に延ばしてもらえばいい・

吉田 うん、祭りは決まった日にやらんといかんが、プレゼンは明日でなくとも出来るやろ

國本 康一君、グッドアイデアやろ！

康一 無理ですよ！先方の取締役の予定とこちらの社長との予定に合わせ

て決めた日程ですよ。それを前の日の今日に延期なんて・

國本 ほら、ここにチケットを買ってきたんや。

背広のポケットからチケットの包みを出す。

康一 チケット？

國本 羽田から能登空港行きの航空券や。明日の羽田発九時三十五分の便に乗れば、十時三十五分には能登空港に着く。そうすれば、お昼までに在所に帰って来られるやろ

チケットを無理矢理康一に手渡そうとするが、康一は受け取らない。

康一 折角のチケットですけど必要ありません。

國本 じゃ、わしらと一緒にJRで今日の内に・

康一 だから、僕は帰れません

吉田 康一、本気で言うとするんか！

康一 帰れません。

吉田 それは、わしらの在所が減びても良いって言うことか！

國本 えっ、康一君、そんなおつとろしいこと考えていたんか！

康一 まさか、誰もそんなこと考えていませんよ！

國本 だったら、プレゼンより九条礼曼陀羅やろ

吉田 康一、考えるまでも無いことや

康一 脅しですか？

吉田 誰も脅しとらん！お前の取るべき道を説いとるだけや

國本 康一君、地震神（ちぶりがみ）様を怒らせたらどうなるか

康一 それも耳にタコが出来るくらいに聞かされてきました。

國本 それじゃ、九条礼曼陀羅を地震神（ちぶりがみ）様に捧げなければ

どんなにおつとろしいことになるか

康一 分かっています

國本 康一君、君は笛方一族に生まれてきた時から、もう運命は決まっておるがや。

吉田 康一、それにあらがうことなんて誰も出来んや

康一 分かっています。じゃ、僕の方からの提案です

ポケットからCDを取り出す

國本 なんや、これは？

康一 CDですよ。ここに笛の曲を録音しました。

國本 えっ！録音したって？

康一 はい、僕が行けない場合にはこれを使ってもらえればと思つて

吉田 笛の曲を録音した！なんて罰当たりな

康一 罰当たりですか？

吉田 当たり前だろ！地震神（ちぶりがみ）様に捧げる大切な九条礼曼茶羅

に録音した笛の音を使うとは、罰当たりも罰当たりじゃ

康一 そうですかね？

國本 そうですかね？つて康一君、そりやとんでもなく罰当たりやぞ

そこに応接室のドアが開いて康一の上司の山路部長が顔を覗かせる

山路 伊吹君、こんなところにいたの・・・会議の時間よ

康一 あっ、すみません部長

山路 どちらさま？

國本 部長？女の人けえ？べっぴんさんやな！

康一 ええ、明日のプレゼンの責任者の山路企画営業部長です。

山路 部長の山路です

國本 部長さん、お願いします！康一君に休みをください

國本は土下座する

山路 ちよつと・土下座ですか？

國本 明日、康一君に休みをください。

山路 明日・

國本 はい、九条礼祭文祭りの日なんやて

山路 明日って、プレゼンのある日よね

康一 はい、プレゼンの日です。

山路 それはあり得ないでしょ

國本 そこをお願いしているんやちや

山路 お願いされてもっていうか、伊吹君、この方たちどなた？

吉田 失礼しました。突然会社に訪問してご迷惑をかけております。わたしたちは康一の出身地、石川県の能登半島にある九条礼村の者です。

國本土下座から立ち上がる

國本 わしは九条礼神社の氏子総代の國本言うて、こちらは九条礼神社の神主の吉田って言います。

山路 九条礼村・九条礼神社・

康一 あの・わたしの出身地の・

山路 そう言えば、君は能登出身って言ってたわね

國本 それで部長様、明日の休みを・

山路 伊吹君、明日の休みって

康一 実は、それには理由（わけ）が・

山路 理由（わけ）？

吉田 部長様には突然のことで驚かれたとは思いますが、明日は私が神主をしております九条礼神社の夏祭り、九条礼祭文祭りの日なんです。

山路 夏祭り？

國本 はい、その夏祭りの笛方が康一君で

山路 伊吹君が夏祭りに・

吉田 ええ、康一には九条礼曼陀羅の笛方として祭りに出て

山路 失礼ですが、悪い冗談はやめてください。

吉田 いえ、冗談なんかじゃありません

山路 プレゼンを止めて祭りで笛を吹く・私には悪い冗談としか思えませんが  
せんけど

國本 それ程、康一君の祭りでの役割は大切なんやて

山路　それで、仕事よりも祭りですか？それはあり得ませんね。

吉田　いや、仕事よりもこちらの祭りが大切なんです

山路　仕事よりも祭りが大切！伊吹君どうということですか？

康一　それには理由（わけ）が・・

山路　分かりました。その理由（わけ）っていうのをちゃんと聞かせてください

康一　九条礼神社の夏祭り九条礼祭文祭りは、少々変わった祭りなんです。なにが変わっているかと言うと、その中で九条礼曼陀羅というご祭神に捧げる特別な儀式があるんです。

山路　ご祭神？

國本　九条礼神社がお祀りしている神様のことがや

吉田　当神社のご祭神はオオイブリナガクスレノミコト、通称地震神（チブリガミ）様と申しております。

山路　チブリガミ？

康一　はい、地震神と書いてチブリガミと読んでいます。

山路　つまり、地震の神様ってことね

吉田　そうですね。その神様のために毎年、九条礼曼陀羅を夏祭りに奉納しておるのです。

山路　その九条礼曼陀羅を奉納するのと伊吹君との休みがなにか関係があるっていうこと？

康一　はい、先ほどもお話ししたように、この儀式は特別な儀式で、九条礼神社の宮司様の一族とわたしたち笛方の一族の者だけが、その場に参加して、祝詞と笛を奉納するのです。

國本　わしのように神社の総代といえども、その場に参加することが出来んちゆう特別な儀式なんやて。

吉田　それで、この儀式を伝承するために、宮司であるわたしたちの一族と康一達の笛方の一族が、一子相伝という形で今日まで伝えてきたのです。

山路　いつしそうでん？

康一　はい、その家に生まれた子どもの内一人だけが継ぐという方法です。

山路　へえ、それが伊吹君ってこと？

康一　ええ、そういうことです。

山路　凄いつて言うか・・大変っていうか・・

國本　はい、江戸時代の初めから四百年余り続いている由緒正しいものなんやて・・

山路　へえ、四百年！伊吹君の家は四百年も続いているわけ・・

康一 ええ、まあそうなりますね

山路 由緒正しい家柄なのね

國本 そうなんやちや。ワシなんかと違ごうて由緒正しいお方なんや。

山路 それで、その四百年も続いた九条礼曼陀羅だけど、それだけ続くには御利益とかがあるんですよね・・

國本 ありますとも。地震神（チブリガミ）様を鎮めるための儀式なんやちや。

山路 鎮める？

康一 はい、これは村に古くから言い伝えられているものですが、この九条礼曼陀羅を奉納することで、地震神（チブリガミ）様のお怒りを鎮めることができます。

山路 怒りって・・じゃその神様が怒ったら？

國本 はい、おつとろしいことが起こります！山津波と海津波が九条礼を襲うんですわ。

山路 山津波、海津波？

康一 ええ、そう伝えられてきました。それで毎年祭りに九条礼曼陀羅を奉納して神様の怒りを抑えてきたんです。

山路 ふーん。そんなに靈験あらたかつてこと？

國本 そうなんやて。十年ほど前に起きた能登半島大地震。他の地区ではがんこな被害も出たけど、わしらの地区はこの九条礼曼陀羅の奉納のお蔭で、なんの被害もなかったや

山路 へえ、九条礼って地盤がしっかりした地区なんですね

吉田 違います。九条礼曼茶羅を地震神（ちぶりがみ）様に四百年奉納してきたお蔭です。

國本 ほやから、絶対に今年で止めるわけにはいかんがや！

山路 お気持ちは理解できますわ

國本 ほうけ！あんやと。やっぱり部長様さまさまや（手を合わせ拝む）

山路 えっ、なにがですか？

國本 なにがって？康一君に休みくれるんやろ！

山路 そんなこと言ってませんよ。

國本 だって、気持ち理解できるって・・

山路 ええ、お気持ちは理解できますが、休みとは別よ！

國本 あちや！

山路 これはわたしからの提案ですが、いい機会ですから一度パスしたらどうですか？（マジメに）

國本 パス？

山路 そう、止めて様子を見て、津波が起こらなければやめるっていうのは如何ですか？

吉田 本気ですか？

山路 本気です！確かに、四百年続いた由緒あるお祭りだってことは良く分かりました。でも、正直地震の神様が怒って地震を起こすなんてバカバカしい話しを、わたしは信じられませんわ！

國本 バカバカしい話って！部長様、

山路 ごめんなさい。ちよつと言い過ぎました。じゃ、こう言い直します。それって、いま政治的問題になっている日本国憲法の九条の理屈と同じじゃないですか。

國本 憲法九条って戦争を放棄するっていう

山路 そうです。憲法九条の改正に反対している人たちは、それがあるかから日本は平和だって言うんです。でも、そんなこと関係ないと思いません。だって、どこかわけのわからない無法者の国が突然攻めてきたら、そんな条文が憲法にあるうとなかろうと戦争は始まるでしょ。だから、それと同じじゃありません。

國本 同じって？ちよつとわたしには意味が分からんがやけど・・・

山路 だから、地震の原因は、わたしたちが住んでいるこの大地の下にあるマントルの動きでしょ？

國本 マントル？

山路 そう、確かマントルだったわね・・・伊吹君

康一 はい、マントルのひずみが蓄積し、それが元に戻ろうと動いた時に地震が起こるという学説が主流です。

山路 有難う。だから、伊吹君の説明のように、そんな九条礼曼陀羅をやるうが地震とはなんの関係もないんじゃないですか。

國本 地震神（ちぶりがみ）様と地震と関係ない！なんちゆう罰当たりな罰当たり？確かにそうかも知れません。でも、そちらのお話しの内

容

も時代錯誤にしか思えません

康一 まあまあ、お二人ともそんなに興奮なさらないで・・・

山路 ところで、なぜ伊吹君なの？だって、四百年も続いてきたんですよ。他に出来る人はいないの？

康一 はい、この宮司の家も笛方の家も二つあります。わたしの家は分家ですが本家も村にはあります。

山路 それなら、その本家の人に頼めば

國本 ところが、それが難しいがや。本家のご主人は昨年の秋に亡くなら

山路 されたし、息子の忠則様は、大学教授で、学会のためにヨーロッパにお出かけで明日までに在所に帰って来られるかどうか分らんがやて。

康一 じゃ、伊吹君の他に誰もいないの？

山路 いえ、うちのおやじがいます。

山路 だったら、おとうさまがすれば済むでしょ

國本 それが、おとつい交通事故に遭って

山路 交通事故！お亡くなりにならな？

康一 いえ、ケガなんですけど、全身を強く打って・・・祭りで笛を吹くことは出来ないって知らせが・・・

吉田 部長様。この通り、明日の祭りに確実に笛を吹ける笛方は康一しかおらんのです。だから、プレゼンは別の方をお願いして康一を祭りのために休ませてください。

山路 それは無理ですね。

吉田 康一じゃなくても・・・

山路 残念ながら、伊吹君しか無理なんです。

吉田 康一以外にもたくさん社員の方がおられるでしょ

山路 社員はいますが伊吹君しか無理なんです。伊吹君、こちらの方に説明してあげたらどう

康一 はい、分かりました。おじさんたち、僕が大学からずっと生命科学の研究をやっているのはご存じですよ

國本 うん、おやじさんから聞いたとる

康一 実は、今回のプレゼンは、僕のこの十年余りの研究結果を実用化するためのプレゼンなんです。

吉田 実用化のための？

康一 はい、うちの会社で、僕は再生医療についての研究をずっと進めてきました。

國本 再生医療って、あのアイ・ピー・エス細胞とか言う奴か？

康一 はい、それに関連してはいますが、企業秘密なので詳しくお話しできません。

吉田 それで？

康一 ようやく、実用化の目処がたち、今回のプレゼンで金融機関から投資を受けることが出来れば、その製造へと進めるのです。

山路 いま、お話ししましたように、彼の研究の成果を、いま、うちの会社が事業化しようとしています。その事業化に当たったの投資のためのプレゼンなんです。相手方はミズコ銀行です。

國本 ミズコ銀行！がんに大手でねえの



山路 はい、事業化には相当の投資額が必要なのです。  
康一 今回の事業化には少なくとも百億円ぐらいは必要です。

國本 百億円！がんな話しやな・・  
山路 もし、これが失敗したらうちの会社は潰れるかも知れない大口の投資案件なんです。だから、絶対失敗するわけにはいかないんです。

吉田 確かに、大切なプレゼンだということは分かりました。でも、九条礼曼陀羅の奉納は、わたしたちの命がかかっているのです。

山路 あなたたちの命？

吉田 はい、九条礼曼陀羅を奉納しているお陰で、この四百年、九条礼には災害も起こらなかったのです。それを止めれば・・

康一 吉田のおじさん！僕の研究の実用化も人の命がかかっているのです。お前の研究も？

康一 はい、この再生医療が普及すれば、多くの人たちの病気を治し、多くの命を救うことにもつながるのです。

國本 ほお、そんなガンコな研究なんや！

康一 はい、僕はそのためにこの十年余りの年月を研究のために費やしてきたのです。だから、明日のプレゼンを止めるということはどうしても考えられません。

山路 それに、このプレゼンはこの会社の将来がかかっています。

吉田 ふん、命を救うって綺麗ごとと言っても、所詮は会社の儲けが大事ってことだろ

山路 勿論、わたしたちの生きている資本主義の世界はそれが前提です。

一同しばし沈黙。その沈黙を破るように宮司の吉田が話し出す。

吉田 康一、お前の立場は分かった。しかし、四百年続いてきたこの九条礼曼陀羅をわしとしては止めるわけにはいかん

山路 宮司様、もっと現実を見られては如何ですか？

吉田 現実？なんの現実です。

山路 科学ですよ。合理的な思考に裏付けされた科学です。

吉田 人間の信仰心よりも科学ですか？

山路 信仰心を否定しませんが、私は科学的思考を尊重します。

康一 おじさん、僕も九条礼に生まれた人間です。信仰の大切さは十分に分かっています。しかし、僕の研究の重要さも分かっていたいただきたいのです。

吉田 わしは認めん。康一、お前の再生医療など認めん。

康一 何故ですか？何故おじさんは再生医療を否定されるんですか！

吉田 それは、神様の領域だからだ。いいか、わしらは神様ではない。神様をお願いする人間なんだ。お前の研究はその則を超えている。

康一 科学の進歩は時としてそういう面もあると思います。しかし、最終的には、科学はわたしたち人間を幸せにしてくれました。

吉田 幸せに？わしはそうは思っておらん。それはお前の思い上がりだ。わしら人間が出来ることは、九条礼曼茶羅のように、ただひたすら神様に祈ることだけなんだ。

山路 宮司様、宮司としてのお立場は理解できますが、実体のない神の御加護よりも、伊吹君の研究の方が、多くの人たちの命を救うことになる可能性は大きいんですよ。正直な感想ですが、祝詞と笛でなにかできます？地震のような自然災害に対して言葉など無力です

吉田 だったら、明日のプレゼンもお止めになったら如何ですか？

山路 プレゼンを止める？なんのために・・・

吉田 明日のプレゼンってなにをするものですか？

山路 なにをする？先ほども説明しましたが、ミズコ銀行に事業を説明して新たに投資をお願いすることです。

吉田 それって九条礼曼茶羅と変わらないと思いますか？

山路 九条礼曼茶羅と？

吉田 そうです。言葉の力で投資を獲得するということと言葉の力で災害を防ぐのとは同じことですよ。ただ、プレゼンは銀行に、九条礼曼茶羅は、地震神（ちぶりがみ）様にと願う相手は違いますが・・・

山路 なるほど・・・九条礼曼茶羅とプレゼンが同じって面白い発想ですね。

じゃあ、望みが叶えられないこともあるんですよね。

吉田 望みを叶えられない？

山路 そうです。だって、明日のプレゼンで、みずこ銀行がノーという可能性もゼロではないんですよ。だから、たとえ九条礼曼茶羅を奉納しても、地震神（ちぶりがみ）さまがノーっていうこともあるんじゃないですか？

吉田 あ・・・（一瞬ポーズ）バカな！四百年も続いてきたんですぞ

山路 ふっ（乾いた笑い）、四百年ね・・・

吉田 うう・・・

國本が腕時計を見て

國本 神主様、JRの時間や！これ以上ここにおいたら汽車に乗れんがなる。

吉田 康一、それじゃわたしたちはこれで帰る。後はお前次第だ。  
國本 それじゃ康一君。明日神社で待つとるぞ

そう言つて、もう一度航空チケットを康一に渡そうとする。康一は受け取る  
うとはしない。

國本 康一君、チケットや

山路 伊吹君

康一 おじさん、僕は受け取れません

國本 康一君！

叫びながら吉田を見るが吉田は無言のまま

康一 すみません。わがまま言つて

康一、深々と頭を下げる。吉田はそれを無視して応接室から出ていく。その後を國本も追いかけて一言。

國本 ああ、後は忠則君が間に合ってくれるのを祈るだけや

応接室の扉の閉まる音。

山路 伊吹君、これでいいのね

康一 はい、部長・・

山路 さあ、会議に行きましょう。三十分遅れたわ

舞台暗転。

暗闇の舞台に、突然、緊急地震速報のアラーム音が鳴り響く。アラーム音が消えると冒頭で鳴っていたジャニス・ジョップリンの「サマータイム」が流れ、音楽の演奏が終わると芝居も終わる。

